

教科	科目	学年	単位数	使用教科書	主な使用補助教材
公民	政治・経済 (演習)	3	2 (2)	詳述政治・経済(実教出版)	ズームアップ政治・経済資料集（実教出版） 大学入学共通テスト問題集（実教出版）

1 科目の目標と評価の観点

目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
評価の 観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。		現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	

2 学習計画と観点別評価基準

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
財政のしくみ	1 学期 (28)	政府の財政活動の役割、財政政策、租税の仕組みについて理解するとともに、財政に関わる課題について理解する。	財政活動に際しては、財政に投入された費用に対してそれから得られる効果を比較しながら最適な政策を選択していく必要があることを理解している。国民生活における租税の意義と役割に関心をもち、公正で適切な負担と受益の関係に基づいて税制度が作られることについて理解している。	持続可能な財政及び租税の在り方について、限られた財源をいかに配分すれば国民福祉が向上するか、また、どうすれば税収を増やすことができるかなど、持続可能な財政の在り方を多面的・多角的に考察している。	財政のしくみについて主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
経済の停滞と再生		単なる歴史的事象の確認にとどまらず、それらが現在の日本経済の課題にどのように関わっているかを理解させる。	円高不況からバブル経済の発生と崩壊に至る背景や要因について理解している。日本経済が直面する課題にはどのようなものがあるか、理解している。	2000年代以降、景気が拡大しても経済成長率が伸び悩んでいる理由について、多面的・多角的に考察している。	経済の停滞と再生について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
日本の中小企業と農業		中小企業について、持続可能性が問われている現状を理解させる。一方で、創意工夫によって成長を遂げている中小企業のあり方や実例を理解させる。グローバル化のなかで今後の農業をめぐる、保護論と自由化論の一大分岐にあることを理解させる。	後継者不足のために黒字経営であっても廃業を選ぶ中小企業がある状況を知り、事業承継が課題となっていることを理解している。農業法人による大規模化や6次産業の進展、スマート農業の振興など、日本の農業の新しい流れについて理解している。	日本経済の基盤ともいえる中小企業が、自立的に成長していける環境を作り出すためにどのような政策が必要か、多面的・多角的に考察している。	日本の中小企業と農業について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
環境保全と公害防止		公害問題は基本的人権との関係でも課題であることを理解させる。環境保全と経済成長は両立すべき概念であることを理解させる。	政府による公害対策や環境保全のための法整備について理解している。自然と共生しつつ新しい地域発展を目指す試みである地域循環共生圏について理解を深めている。	外部不経済についての理解を基に、外部不経済の内部化の方法を多面的・多角的に考察、構想している。	よりよい社会の実現のために、環境保全と公害防止とその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。
労使関係と労働条件の改善		労働法の整備状況や、職場の人権保障について考える。労働者が安心して働けるための条件とは何かこんにちの労働問題について理解する。	労働環境について、各国比較によって日本の特徴を適切に読み取り、まとめることができる。技術革新によって多様な働き方が可能になっていることを理解している。	なぜ労働法規によって労働者の権利保護が図られているのか、考察を深めている。安定した雇用を優先するか、多様な働き方を優先するか、自分の職業観に引き付けて多面的・多角的に考察している。	よりよい社会の実現のために、労働関係と労働条件の改善について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。
社会保障の役割		諸外国の制度との比較も含めて考える。少子高齢化が進行する中で、望ましい制度のあり方を検討する。	社会保障の考え方を知り、それらが歴史的にどのように制度化されてきたかについて理解している。日本の社会保障制度が諸外国との比較でどのようなものであるかを知り、また、その概要を理解している。	公的年金制度の意義について、p.155のコラムを通じて考察を深めている。これからの社会保障について、全世代型の社会保障を実現するためには何が必要か、多面的・多角的に考察を深めている。	よりよい社会の実現のために、社会保障の役割とその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。
国際政治の特質と国際法		国際社会には世界政府のような存在がないため、国際社会においては各国の力関係がものをいうパワーポリティクスに陥りやすいことを理解させる。領土問題の解決が容易でないことを理解させる	国際法については統一的な立法機関がなく、国際司法裁判所の裁判も当事国の合意をもって始められるなど、強制力が十分には機能しないことや、国家間の関係を規律する法である国際法が、近年は個人、企業、国際機関などの国家以外のものも規律するようになってきていることを理解している。領土問題については、国際平和の維持と安定のためにも、平和的な解決に向けて広い視野に立って継続的に努力する態度が必要であることについて理解している。	国際政治や国際法はどのようなものなのか、国内政治や国内法との違いに着目してまとめるなど、適切に表現している。	国際政治の特質と国際法について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
国際連合と国際協力		国際連合が世界の平和と安全の維持のために多くの専門機関や関連機関と連携していることを理解させる。	国際紛争の防止や解決に向けての行動などについての考察を通して、国際連合の普遍性と意義について理解している。国際連合の専門機関などの活動が、人類の福祉に大きな貢献をしてきたこと、国際連合による平和維持活動が世界の平和に大きく寄与していることについて理解している。	国際連合が抱えている課題について、採決や財政の観点などから協働的に考察し、それらを適切に表現している。	国際連合と国際協力について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
定期考査	2				
現代国際政治の動向	2学期（38）	冷戦に至る歴史的背景について、対立する主体に注目して理解させる。大国のナショナリズムによって新たな対立が生じている現状を理解させる。	冷戦終結後に生じた国際政治上の力学変化について理解を深めている。中国やロシアなどの大国が領有権紛争を起こしていることや、中東の民主化運動により地域全体が不安定化していることなど、今日的な国際政治の課題を理解している。	冷戦終結後に地域・民族紛争が多発したことについて、その要因を多面的・多角的に考察している。各国が権力政治を克服し、国際協力を基調とする公正で平和な国際社会を形成するために何が必要か、考察・構想を深めている	現代国際政治の動向について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
核兵器と軍縮		核の保有国と非保有国の意見の相違と国力の関係などについて、多面的に検討させる。近年の安全保障環境の変化に対応して、安易に核保有を推進する議論に傾かないように留意させる。	NPTに参加しない国があることや、CTBTの発効の見通しが立たない状況など、核廃絶に向けて課題が残されていることを理解している。核兵器禁止条約の歴史的意義について理解するとともに、核保有国や日本が参加していない理由や課題についても理解している。	安全保障のジレンマを乗り越えて軍縮を進めていくためには何が必要となされるか、考察を深めている。科学技術の進展に伴う通常兵器の深化と危険性について、多面的・多角的に考察している。	核兵器と軍縮について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
国際紛争と難民		人種・民族問題は過去のものではなく、現実の課題として残っていることを具体的な事例から理解させる。偏狭なナショナリズムを乗り越えて、多文化主義に立脚した問題解決が重要であることを理解させる。	冷戦終結後に地域紛争と民族紛争が多発したことを要因とともに理解している。マイノリティを抑圧しないために、多文化共生主義に立つことが重要であることを理解している。	難民や国内避難民について、どのような援助が必要とされているのかを多面的・多角的に考察している。	国際紛争と難民について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
国際政治と日本		日本の戦後外交について、外交の三原則に基づいて進められてきたことを理解させる。ODAやPKOだけではなく、人間の安全保障の観点からも国際貢献が求められていることを理解させる。	アジア諸国との国交正常化が進められる一方、賠償のあり方をめぐって裁判が繰り返されるなど、根本的な解決には至っていない現状を理解している。	戦後補償問題はなぜ解決しないのか、各国の主張を参考にして考察している。いかなる国家も不当な圧力に脅かされないこと、地球上から飢餓や貧困を解消していくように全力を挙げることなどについての理解を深めることができるようにし、日本の役割や国際社会の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	国際政治と日本について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
商品・資本の流れと国際収支		比較生産費説と国際分業の利益については、具体例と演習問題を通じて十分に理解させる。国際収支表によって、日本の貿易・投資がどのように変化しているかを理解させる。円高と円安が日本経済に及ぼす影響について、具体的な貿易を想定して理解させる	貿易が、国際分業と交換から成り立っていることの理解を基に、現在の世界及び日本の貿易の現状と動向について、具体的事例や客観的な資料を基に理解している。国際収支の考え方を理解している。また、日本の国際収支表を見て、時代に追って貿易のあり方にどのような特徴があったかを読み取ることができる。	貿易がすべての国にとって利益があるかどうかについて、考察を深めている。日本経済にとって、円高傾向がよいのか円安傾向がよいのかについてを利用して多面的・多角的に考察している。	商品・資本の流れと国際収支について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
国際経済体制の変化		通貨や貿易体制の枠組みを規定したIMF・GATT体制と、その変容の歴史を理解する。二国間交渉が進められている一方、旧来の多角交渉も継続されていることを理解させる。	IMFとGATTに代表される国際経済体制について、その概要を理解している。南北問題の背景と現状について理解している。資源産出国が自国の権益を保護しようとした歴史的な経過について理解している。GATT、WTOにおける多角的交渉が目指したもののについて理解している。	ブロック経済が世界貿易の停滞を招いたのはなぜか、多面的・多角的に考察している。ドーハラウンドにおける協議がなぜ停滞しているのか、多面的に考察している。	国際経済体制の変化について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
グローバル化と金融危機		経済のグローバル化がもたらしたメリットとデメリットを、それぞれ理解させる。国際的な資本取引の規制やデジタル課税の動向など、最新事象についても補足して理解させる。	金融のグローバル化の結果、資本の国際取引が活発になったが、その一方で投機的資金の移動が実体経済を脅かすこともあることを理解している。自由な資本移動が国際金融の不安定性を招くおそれがあること、その対応策として、国際的な資本取引の規制やデジタル課税を導入するルール作りが進められていることを確認する。	グローバル化がもたらすメリットとデメリットにはどのようなものがあるか、多面的に考察している。国際的な資本取引に対する金融規制をどう考えるかについて、多面的・多角的に考察している。	グローバル化と世界金融について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
地域経済統合と新興国の台頭		世界各地で経済統合と自由貿易が進展している現状を理解させる。EUを例として、経済統合のメリットとデメリットを理解させる。新興国の台頭が先進国との対立も引き起こしていることに着目させる。米中対立における覇権主義や自国第一主義について、現状を理解させる。	各地域でどのような経済統合が形成されていったかについて理解している。EUを例として、どのように統合が深化していったかを理解している。BRICSともいわれる新興国の中でも、とくに中国が世界的な影響力を強めており、一帯一路構想の下で一大経済圏を形成しようとしていることを理解している。	EUの統合について課題を見出し、各国の経済的格差の課題などについて協働的に考察し、適切に表現している。地域の経済統合がもつメリットとデメリットについて、自由と公正の観点から考察し、適切に表現している。	地域経済統合と新興国の台頭について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
地球環境とエネルギー		地球環境問題については、中学公民や地理総合で既習となるので、本単元では概観にとどめておく。「環境か経済か」ではなく、「いかに環境保全を通じて経済成長を実現するか」という考えに根差した新しい経済発展モデルを認識させる。	地球環境問題の国際的な対策のあゆみについて理解している。低炭素社会や脱炭素社会が目指すものについて理解している。	環境保全をめぐる国際協力にはどのような課題が残されているか、多面的・多角的に考察している。世界と日本のエネルギー政策に違いはあるか、多面的・多角的に考察している。	よりよい社会の実現のために、地球環境とエネルギーとその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。
経済協力と人間開発の課題		貧困や格差が解消されていない現状と、その解決が国際的な目標となっていることを理解させる。日本政府や私たちが国際的な貧困や格差を解消するために行動することが求められていることを理解させる。	ODAからSDGsにつらなる援助と開発の過程について理解している。先進国による援助の中心としてODAがおこなわれてきたことを理解している。	日本のODAの特徴と課題はどのようなものか、資金の用途や貸与方式などの観点から多面的に考察を深めている。	経済協力と人間開発の課題について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
定期考査	2				
	3 学期	大学入試準備			